

今年度より新しく附属校に着任された先生方がAPUを訪問しました。「APUってどんな大学なの?」「どんな学生生活が送れるの?」そんな疑問をお持ちのみなさんに、本通信では先生方よりAPUの魅力を語ってもらいます。

立命館中学・高等学校 和田篤史 先生より

## こんな人はぜひAPU!

### 社会に出るとき英語で勝負をしたい人

英語が得意な人は、さらに英語の力をつけ、英語力を活かせる仕事につきたいと思っている人も多いと思います。しかし、普段の生活では日本語に囲まれているので、どうしても限界が見えてきます。

APUでは、英語の授業があるのはもちろんのこと、「英語で行う専門の授業」もあります。しかも、単に話を聞くだけでなく、隣同士で意見を交わしたり、みんなの前で発表したりと、英語を使わなければならない環境が用意されています。また、学生の半分が世界各国からの留学生です。仲間とも英語で会話をするこ



とで、さらに英語力がつくことも間違いなしです。

### 世界中に仲間を作りたい人



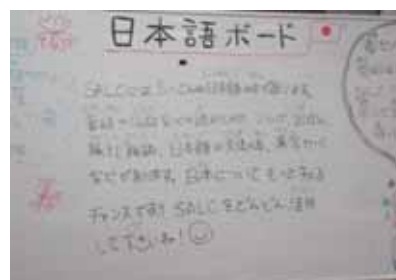
留学生の人数が多いだけではありません。4年間一緒に学んでいく留学生がほとんどなのです。他の大学では1年で帰国する留学生が多いです。そうすると、どうしても親しくなる間もなく帰ってしまうことが多いです。しかし、APUなら4年間一緒ですから、授業だけでなく、サークル活動でも一緒に取り組むことが多いです。高校でもクラブの仲間は一生の宝と言いますが、APUに来たら世界規模で宝が生まれるのです。

また、1回生のときに寮に入れば、普段の生活やパーティーなど留学生と親しく関わる機会が一層増えます。世界をまたにかけて働きたいと思う人にとって、世界中に仲間が出来ることは一生の財産です。

### より一層、主体的に活躍したい人

今でも、文化祭や体育祭などの行事では、君たち自身に企画や当日の運営などをやってもらっています。これらの取り組みを喜んでしている人は、APUに大変向いています。

例えば、寮でも「RA」と呼ばれる役割があります。これは、寮生活をする1回生を支える先輩スタッフです。それも、ただ支えるだけではなく寮での行事などを自分たちで動かせるのです。



他にも、生協の学生委員や日本人学生と留学生が語学を学び合う場所、アジア太平洋地域の各国を特集する一週間など、日々の生活や行事のさまざまな場面を引っ張るチャンスがたくさんあります。行事をやりとげて良かった、という思いが強い人ほど、APUでの学生生活を大いに楽しめると言えるでしょう。

## 2012年 APUレポート

『現在の中高校生が大学、大学院を経て社会に出るころ、世界はどのような状態になっているだろうか。またそんな時代に必要となる人材とはどんな人材であろうか。』

今回APUを訪問した際、最初にお話を伺ったAPU入試部長の近藤祐一先生から上のような質問を受けました。今、中高校生の皆さんが社会に出るまで、短くて4年、長くて10年から16年はかかります。その頃、2016年～2028年、世界はいったいどのような状態になっているのでしょうか。

政治、経済、環境、社会、宗教、文化など、どの分野においても今2012年とは異なっているだろうということは簡単に予測がつくでしょう。4年～16年という年月は、現代の社会において決して短い時間ではありません。これまでの4年～16年を振り返ると、この期間に様々な変化が起きたことが分かります。ニュージーランドや日本での大地震、国の経済破綻、紛争、原発問題など、これだけの年月があれば大きな変化が世界を襲うこともあります。また変化は一度きりのものではなく、連動・継続して起こり続けることも多々あります。そしてそれらの変化は予測できるものもあれば、予測以上もしくは予想外のものも少なくありません。短い周期で様々な変化が訪れるそれが今、そしてこれからの時代です。

そんな時代に社会へと飛び出す皆さん。その時世界が必要とする人材とはいったいどのような人材でしょうか。私が考えるこれからの世界で必要となる人材とは、柔軟性とスキルを備えた人材です。新しい変化が起こるたびに「これはマニュアルにない」といちいち動揺してしまうのでは困ります。また変化が起こるたびに「新しいスキルが必要」と言っていては間に合いません。様々な変化の中、日本と海外の国々との関係もこれまで以上密接なものになるでしょう。変化に対応する柔軟性、そして日本を含む世界で社会に貢献するには、そのための言語力や専門知識、分析能力などのスキルが必要となります。そしてそれらを学ぶことができる大学が日本国内にあるとすれば、APUの様な大学です。

今回APUを訪問した際、数名の学生にインタビューを行いました。その中でノルウェーから来た学生とのインタビューが大変心に残っています。彼が私に言いました。『私は他人とは違う人間です。そしてもちろん、私の人生も他人の人生とは全く異なります。さらに、私は意図的に自分の人生をよりユニークなものにしようと心がけています。例えば以前はノルウェーで大学に通っていましたが、2年次から日本に来てAPUへ編入し、日本語をマスターし、また専門的な分野もAPUでは日本語・英語で学んでいます。これらすべてを通じ、私は柔軟性を養い、また特殊性（自分だけにしかないユニークさ）も得たと思います。自分の特殊性がなければ、これからの社会では埋もれてしまうだけです。』

英語や日本語、その他の諸外国語だけを学びたいのであれば、海外に交換もしくは語学留学で長期的に滞在すれば良いでしょう。しかし専門的な内容を日本そしてアジアの視点から、また国際的な環境で、国際言語である英語で学びたいとすれば、APUでの生活が待っていると思います。日本国外から来ている国際生が45%を占めるAPU。海外出身の教員も多く、英語で専門課程を学ぶこともできます。もちろんそれらの環境を活用できるかは、学生本人次第です。しかし、学習環境というものを慎重に見極め、高校卒業後の進路を考えてほしいと思います。他人と同じ学歴、経歴、趣味や特技を持つ時代は終わりました。自分の将来、自分たちの時代のために自分だけの進路を皆さんが見つかる事を期待します。

## APUの魅力

大分県別府市にある立命館大学の姉妹校APU（立命館アジア太平洋大学）の魅力は「同じキャンパス内で多数の国の人とつながりができる」という国際性である。国際社会に通用するグローバル人材を育成するAPUでは、2011年現在79の国・地域から留学生2554名が学び、全学生数5722名の45%に達する。また、教員も166名中78名が外国籍である。これを裏打ちするものは、英語基準での入学つまり、他の国からの留学生である国際学生にとって、「日本語ができなくても入学できる」ということであろう。キャンパスでは日英二言語を公語にしており、国際学生にとって、日本語開講科目は任意履修なのである。さらに、英語・日本語とは別に中国語、韓国語、マレー・インドネシア語、スペイン語、ベトナム語、タイ語の6言語を選択で履修することも可能である。学食にはハラール・フード（＝イスラム教徒が食べられる食べ物）も置いてある。多文化環境ができあがっているのである。

グローバル・リーダーの人材育成を大学の教育方針として掲げているため、国内学生には英語言語科目・英語開講科目が開講されている。こうした国際的な環境のキャンパスの意義はどういうものであるのか？

そうした問いに、国際学生も国内学生は積極的にさまざまな意見を言ってくれる。APUの学生は実に自主的・積極的である。「実用的な語学学習」「アウトプットの授業が多い」「楽しくいろいろなチャンスがある」など数多く学生の口から語られた。

ある国際学生は、「欧米だけじゃなくて、発展途上国のことをもっともっと分かってほしい。」

また、ある国内学生は「当たり前のように他の選択肢も考えないで都会の大学に行くことは、逆に視野が狭くなる。だからここへきた。」

そうした意見の中で、高校生に伝えたいという共通点は「ここにしかない国際環境」である。つまり、留学生が多く、他の大学ではできない国際的な経験ができ、世界が身近に感じられ、いろいろな人との絆ができるキャンパスがAPUである。ここには、日本に一つしか無い環境がある。ほかの大学ではAPUのような国際的な経験はできない。

要するにAPUの魅力とは、「同じ場所で、同じものを見ることで、他の国からの学生との異なる価値観が交わり、新しい絆ができる。」ということであろうか。

グローバル化の影響で、「国際」の名を冠した学部改編・新設する大学が目立つ。しかし、「二十一世紀はアジア太平洋地域の役割が一段と高まる時代となり、国際的に活躍できる人材を育てるための本格的な国際化された大学が必要」との考えで設置されているAPUでの本物の国際環境の魅力に、ぜひ触れてほしい。

なぜ今APUか。「日本国内だけでどこか就職して生きていこう」と考えることのどこがおかしいのだろう。インターネットで世界はつながっているにもかかわらず、生活は日本国内でという内向き考えの若者の状況は、あまり変わっていない。日本での常識が世界では非常識。時代を打ち破る必要性。APUではそれらが確信にかわるのではないだろうか。

## APU Review

My fellow new Senin and I went to APU for a workshop and training session from Monday, April 30th to Tuesday, May 1st. The schedule was started by breaking the attendees into smaller groups and having a discussion on students, the future of education and diversity. This was followed by a presentation on career related information on graduates of APU, then a presentation on Admissions, a campus tour, student interviews and a report given by the teachers on the student interviews conducted.

Overall, the campus was impressive and the students that I had the opportunity to interview seemed capable. The campus itself was technologically advanced, clean and functional. There also seemed to be a multitude of activities and programs going on throughout the campus that had the potential to enrich students' lives if they choose to take advantage of the opportunities. There were programs to go abroad, to more fully develop certain areas of a student's knowledge-base and others that seemed more experiential like Habitat for Humanity. We had the chance to hear from some students who participated in Habitat for Humanity and they clearly benefitted greatly from the experience.

The students that were interviewed were a diverse group representing one the many strengths of APU. As several students commented, their reason for choosing APU was because of the diversity of the student body. Many said that APU was the only university in Japan where that kind of diversity in student population could be found. The students we interviewed hailed from Japan, Indonesia, China, Nepal and Germany and we only interviewed 8 students, so within that limited sample set we managed to find people from five different countries. All of the students seemed comfortable conversing in Japanese and English, which clearly is strength of the university's curriculum and campus. Having bi- and tri-lingual graduates will increase the likelihood of finding employment, increase the prestige of APU's reputation and help build a more connected world.

In summary, both the physical assets and human-capital are the reasons for APU's success thus far as a young university. To ensure continued success, the university needs only to maintain its campus and commitment to finding students interested in diversity and internationalism.

『APUの魅力』

私は今回のAPU研修を終えて、次に挙げる3つをAPUの魅力であると感じた。

まず、国際交流ができる環境があるという点である。APU学生にもAPUの魅力についてインタビューを試みたのだが、インタビューをした生徒全員がこの点を魅力にあげていた。そして、話を聞いて感じたことが、彼らの言う国際交流が、ただ語学を話せるというものではない。様々な国から学生が集まっているので、語学は当然だが、様々な文化や考え方の違いを肌で感じることができるのだ。特にAPUハウスでの寮生活は、身近に異文化を感じることができる場所である。またAPU学生のプレゼンテーションを聞いても、本当に大きな目標を掲げ、それに向けて真剣に取り組み、その中で人と人との繋がりも実感していた。それ以外にも、海外の学生がとても高い志を持って学校に来ていて、それを伸ばせる点や、マルチカルチュラル・ウィークも魅力の一つである。また、現在将来のことが定まっていない学生にも、自分がやりたいことをしっかりと見つけられる。海外で実践のある多くのボランティアサークルもあり、学生が生き活きと自分がやりたいことをやっている姿もとても印象的だった。このような環境で学ぶことにより、他大学ではできないような経験をすることができ、多くの人脈や視野、ネットワークを広げることができるところが魅力であると感じた。

次に、APUでの授業を拝見したとき、語学の授業以外にも、高いレベルでの専門的な授業もあった。授業では実践的な指導をしておられたので、自分の授業にも生かせる授業であった。具体的には、第一に、生徒の生活と数学との接点を示せるような工夫を授業の中に取り入れていきたい。第二に、一方的に教師から生徒に教える形態だけにならないよう、生徒が作業する時間や生徒がプレゼンテーションをする機会を作っていく、生徒が主体的に取り組めるように教育内容の開発を行い、それをさらに有効に行えるような教育方法を考えていきたいと自分の教育実践にも刺激にもなった。

最後に感じた魅力はこれからの時代に必要な人材を育てるような教育プログラムがAPUにあるという点である。当然まず必要になるのは語学であり、様々な経験から得られた広い視野を持った人間であり、国々の文化の違いにフレキシブルに対応できる点、クリティカルシンキング、問題解決能力など、APUにはこれらを幅広く学ぶことができると感じた。学ぶだけではなく、肌で感じ、それらを実践できる。これはグローバル社会で今後確実に求められてくる能力だと私は考える。

APUには上に挙げたような他大学には無い魅力のある環境で、今後世界で通用できるような魅力あるプログラムの中自分自身の目標に向かって充実した学生生活を送ることができる。



ゴールデンウィークの最中、APUにて施設見学・学生インタビューをする機会がありましたので、その概要をご紹介します。

### 1．想像と違っていたAPU

APUは九州大分県別府の山の上にある、別名：天空の大学とも言われる国際経営学部・アジア太平洋学部を擁する大学です。行ってみるまでは正直どんな大学か解らず、前任校でも進路指導の選択肢に入っていない大学でした。似た感覚は秋田の国際教養大学でもありました。彼の大学は経営難で撤退した海外大学の日本分校を使った地方の単科大学で、間違っても数年後に東大を抜く大学になるとは想像していませんでしたが、見事な成長と評価を得ました。さて、APUですが、内容をレクチャーされるうちに、これは国際教養大よりすごいではないかと思うことになりました。次に、そのいくつかを紹介します。

### 2．留学生との交流

APUは学生数で、教養大の約10倍近い規模があります。留学生はその半数で、教養大の様な半年～1年の短期留学ではなく、4年間通う学生がほとんどです。1年目はAPハウスという寮（7割が留学生）に入ります。日本人は希望者による選考ですが、附属校生は優先的に入寮できます。ここに入った学生の話を見ると、個室と二人部屋があり（選べません）間仕切りをされた二人部屋では留学生と日本の学生が暮らすこととなります。その学生は韓国人と暮らしましたが、他国の文化・言語と同居することになり大変楽しく、その後もその留学生と下界（麓の街）の民間アパートで一緒に暮らしているとのこと。この3年間で10回以上韓国に行き（宿泊費は無料）韓国語も覚え、たくさんの友人が出来、卒業後の進路も選択肢が広がったとのこと。また、授業・サークルでも多くの国の学生と交流を持てますが、自ら一歩進む気持ちがないと他国の友達は出来ません。

### 3．二言語授業

APUでは日英二言語の授業が開講されます。入学後のプログラムにより、TOEFL480点以上で英語開講科目の受講が出来ます。語学自主学习センターもあり、学習ソフトDVDなどで自学できます。TOEFL460点以上で、中国、韓国、スペイン、タイ、ベトナム、マレー語を習うことが出来ます。1回生では、4日の海外研修があり、その後も海外提携大学との連携プログラムや立命館大・国際教養大への国内留学制度があります。

### 4．サークル活動

自分を変えたい、可能性を広げたいと思う人にはサークル活動が効果大です。ハビタットに参加している学生からは、ネパール、インドネシア等で1週間滞在し、現地の人と共に家造りをする事業に参加し、その国の生活、習慣、文化に触れ、交流が出来て大変よい経験をしたとの話を聞きました。別の学生からは、3回生になるまで普通に暮らしていたが、思い立ってインドに一人旅をし、そこで積んだ経験が東南アジアで起きている児童虐待に関心を持ち、帰国してから映画を作成し大きな反響を得て九州中の先生への研修として利用されたとの話も聞きました。

### 5．まとめ

APUの卒業生は大企業からの関心度が高く、多くの学生が活路を見出しています。ここでは、外を向く積極性を持てば、その気持ちを何倍もの実績に換えてくれる場と仲間と教官がいます。チャレンジしたい学生は、ぜひ考慮に入れるべき大学だと思います。

## 『APUの魅力』について

立命館アジア太平洋大学（以下「APU」という）は、「自由・平和・ヒューマニズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として、2000年4月、大分県別府市に開学しました。世界各国・地域から未来を担う若者が集い、ともに学び、生活し、相互の文化や習慣を理解し合い、人類共通の目標を目指す知的創造の場として設立されました。世界81カ国・地域から集まる約2,700名の国際学生、教員も半数が外国籍という「マルチカルチャル・コミュニティ」の中で、アジア太平洋地域の平和的持続可能な発展と、人間と自然、多様な文化の共生に貢献する人材の育成を目指しています。

ここでは、実際にAPUの学生にインタビューを行った結果、その中から見えてきたAPUの魅力について、報告します。

### インタビューの概要

好きな授業、面白い授業は何ですか？

- ・ 英語をはじめとする語学の授業が充実しています。実用的な会話や作文ができるようになるだけでなく、外国から来た学生（以下、「国際生」という）と友達になることができます。

入学して、期待がはずれたことはありますか？

- ・ 国際生と接触できる機会がたくさんある素晴らしい環境にあるのですが、こちらから積極的に接触を試みないことには、友達になることはできません。

熱心に取り組んでいること、取り組んだことは何ですか？

・ 語学の勉強とサークル活動。国際的なボランティア活動。外国への一人旅。一年間の海外留学。・・・  
高校生に一言

- ・ APUは外国の人や文化とつながれるチャンスがある学校です。附属校での学びが活かされる学校でもあります。外国に興味のある人、外国の友達がほしい人、将来国際的な仕事がしたい人は、是非APUへの進学をお勧めします。きっと、有意義で充実した大学生活を過ごすことができるでしょう。
- ・ APUに進学を考えている人は、英語をしっかりと学習しておくことはもちろんですが、日本の伝統や文化、歴史などについてもしっかりと学習しておいてください。自分の考えをもっていないことには、国際生と対等に議論ができません。高校生の間に、自分の国のことや世界のこと、そして、自分の未来についても真剣に考えて、APUに来てください。

### まとめ

APUは、現在、日本の企業の方から、最も注目を浴びている大学の一つです。そのユニークな教育によって培われたAPUの学生の能力に、日本の未来を切り開く力があると期待しているからです。APUには、日本や世界の未来を切り開くことができる力を育てるための環境が整っています。高い志とチャレンジ精神をもった学生が多く集まっています。

立命館憲章にあるように、自分の未来を切り開くための修養の場として、地球市民として活躍するための人間力を養いたい人には、APUへの進学を推奨します。